

平成 28 年度 統計委員会 議事概要

日時:平成 28 年 8 月 23 日(木) 14:00～16:00

場所:兵庫県民会館 1202 号室

開会

- ・ 委員 5 名全員の出席により、統計委員会規則第 6 条第 2 項に規定する過半数の出席を満たしているため、委員会が成立していることを報告。

議題 1 県基幹統計調査の指定及び匿名データの作成等について

(事務局)

- ・ 資料 1 に基づき、県基幹統計調査の指定及び匿名データの作成について、現在のところ該当がないことについて説明。

<質疑応答>

(委員)

- ・ 以前、県統計調査結果は、再集計しやすい形になっていないよう感じた。これは、エクセルを利用して集計を行うことを前提にしているからだと思うが、テキスト形式のようなシンプルなインプットで集計すると再計算しやすくなる。このようなことを県統計調査実施者に周知できないか。

(事務局)

- ・ 県統計調査所管課への周知を検討する。

(委員)

- ・ 政策策定のための基礎資料として調査が行われる訳だが、政策評価のためにも二次的利用が推進されるのが望ましいと考える。匿名データの作成が難しいことは想像できるが、他に二次的利用に供するための手段はないか。どこかに行ったら使えるような仕組みは考慮されているのか。

(事務局)

- ・ 調査票情報の提供(二次利用)は、数年前に枠組みを作っており、こちらが利用できると思う。

(委員)

- ・ 県条例に則って申請し許可されれば、神戸大学の所定の部屋で利用することができる。

(委員)

- ・ 調査票情報の提供の機会があるのはわかった。さらに利便性が高まるような配慮があるのが望ましいが、例えば、「中堅・中小企業の資金調達状況に関する調査」であれば、一部の企業は継続標本となっているようである。設計上、継続標本が、前期調査と接続できるようになっているのか。

(事務局)

- ・ 即答できないので、次回委員会での報告としたい。

(委員)

- ・ 調査への回答がどのようなことに役立つのか見えにくい。統計調査への協力を得るために

も、調査結果が何に役立つとか、調査でこのようなことが分かったということが調査客体に分かるようにすることが大切だと思う。

(事務局)

- ・ 県統計所管課への周知を検討する。

(委員長)

- ・ この件について、事務局の報告は妥当とする。

議題2 経済分析ツールについて

(事務局)

- ・ 資料2に基づき説明。

<質疑応答>

(委員)

- ・ 地域産業連関分析ワークシートの作成地域が、県内の一部となっているのは、リクエストがあった市町のものだけを作成しているからか。

(事務局)

- ・ 大学研究室から粗いデータをもらって、関連するデータを加える加工をして産業連関表及び経済効果分析ワークシートを作成している。県内全市町分を作りたいのだが、一部市町しか作っていないのは、マンパワーが理由である。このため、作成希望市町から順に順位をつけて作成している。県立大学の研究員の協力も得て作成作業を進めていきたい。

(委員)

- ・ 現況としては、1年に6,7箇所が限界ということか。

(事務局)

- ・ 作成できるのは、1か月で3市町くらいである。

(委員)

- ・ このツールの市町向け、あるいは一般向け研修は行うのか。

(事務局)

- ・ 11月11日に県と県統計協会の共催で開催する「統計活用セミナー」で説明する。この説明で、活用法や考え方が分かってもらえると思う。ただ、説明を聞いただけでは、分かりづらい。しかし、推計主体と一緒に経済効果推計作業をすれば分かってくると思う。取っ掛かりという面では、「統計活用セミナー」は良い機会だと考えている。
- ・ 神戸マラソンなどのイベントは、政策評価をきっちり行うべきという流れがある。そのツールとして活用できると思う。

(委員)

- ・ 研修機会が、「統計活用セミナー」だけでは、少ないと思う。県立大学のコンピュータールームでも研修すればいいのではないか。

(事務局)

- ・ 研究会代表の県立大学の加藤先生からもこのツールを広めて欲しいと要望があるので、検討したい。

議題3 豊岡市における観光見える化の現状と課題

- ・ 資料3に基づき説明。

< 質疑応答 >

(委員)

- ・ 資料 21 ページの「2 課題」に記載してある活動内容のモニタリングとは何か。
- ・ 対象エリアは、出石だけでなく、移動も含めたパッケージで分析していないのか。

(有識者)

- ・ モニタリングとは、資料 15 ページ下図の「手段」「活動」「指標」を指している。これらをモニタリングするという意味である。
- ・ 出石は、城崎での宿泊や竹田城との組み合わせが多いことが、この調査で分かった。これを活用して、どんな人が興味を持っているか分析していく。当方は旅行業免許もあるので、そういう人への旅行商品を作っていきたい。どこどこがつながっているかを把握することが、必要であると考えている。

(委員)

- ・ 出石だけが調査に協力してくれたから出石の調査をしたのではないのか。

(有識者)

- ・ 他にも候補地はあったが、試験的に出石を選んだ。他地域も一度に調査するのは難しい。出石は、「出石の未来を考える」というプロジェクトチームができたことも要素としてあった。これを横方向に広げていこうと考えている。

(委員)

- ・ 資料 15 ページ下図について、指標が上がればアウトカムが上がる。そのためには、どの手段が有効なのか分かるようにしていくものなのか。どの手段が有効かは、試行錯誤なのか。

(有識者)

- ・ 手段は、「目的に貢献しているかどうか」という観点で作っている。荒い話だが、経験的な勘で手段を決めた後、きっちりした指標を決める。指標どうなるかを見て、手段を選択していく。手段や活動が、上位の手段(目的)に貢献しているかをチェックするために指標を置いていく。指標が置けないこともあるが、できるだけ指標を置くようにする。

(委員)

- ・ 指標がどのように役立っているか判断していくのか。

(有識者)

- ・ (試作版を提示して、)この試作を毎年見直していく。認知度が上がったかを評価する。できるだけ数値に落とし込んで評価する。

議題 4 その他

(1) 平成 28 年度兵庫県統計教育セミナーについて

(事務局)

- ・ 資料 4-1 に基づき説明。

< 質疑応答 >

(委員)

- ・ アクティブラーニングは、次期学習指導要領で前面に出てきたので、項目として良いと思う。タイミングが良かった。

(委員長)

- ・ 参加人数が年々増えている。講演では、具体的な事例の話はあったのか。

(事務局)

- ・ 講師が、文部科学省の学習指導要領改正関係の委員に就任しているため、最新のデータも資料に入っており、説明もあったので、参加した教員は興味があったのではないかと感じた。また、統計の見方では、だまされやすい統計の落とし穴など事例を用いて分かりやすく説明していた。高校は難しいと思うが、小中学校では授業への取り入れも検討してもらえるのではないかと感じた。

(2) 県統計データ HP 上での公開について

(事務局)

- ・ 資料 4-2 に基づき説明。

< 質疑応答 >

(委員長)

- ・ 昨年の委員会で提案された意見を取り入れながら、改訂に取り組んでもらっている。

(委員)

- ・ 現行では「その他の統計データ」の中にある総合統計データは、どこに移すのか。

(事務局)

- ・ 「刊行図書データ」に入れる予定である。

(委員)

- ・ 「刊行図書データ」の中に入れると、他の項目に紛れてしまうのではないかと感じた。総合統計データは、各年のデータがまとめてあり便利なものなので、分かりやすく残してほしい。

(事務局)

- ・ 総合統計データが分かりやすくなるよう、見せ方を工夫する。

(委員)

- ・ 「総合統計データ」が分かるようにした方がよい。

(3) 平成 23 年産業連関表の概要について

(事務局)

- ・ 資料 4-3 に基づき説明。

< 質疑応答 >

(委員長)

- ・ 経済効果の計算結果は正しいものなのか。

(事務局)

- ・ 最近では、経済効果は、仮説データを用いて推計した事前予測でなく、事後に必ずアンケート等の調査データから推計している。供給側の事業者アンケート、業務統計データの収集などを経て計算し、有識者の検討会で検証したものを公表している。
- ・ また、行政が推計して公表すると手前味噌になってしまう恐れがあるので、大学と連携し研究会名で公表している。

閉会

(委員長)

- 本日の議論をまとめる。
- 議題1は、該当なしの報告があった。
- 経済分析ツールは、今後活用されていくことになるだろう。
- 豊岡市は、取組みを始めたばかりであるが、このまま続けてもらいたい。
- 統計教育セミナーは、参加者が増えてきているということで、順調に進んでいる。
- HPは、意見への対応を検討してもらっており、今後も願います。
- そのほか、委員から意見が出たものについて、事務局側で対応できるものがあれば対応していただきたい。